

肺炎球菌ワクチン（PCV-13）

【肺炎球菌感染症について】

肺炎球菌は乳幼児の鼻やのどに定着しやすい菌です。飛沫によって感染し、中耳炎や肺炎、ときに髄膜炎、敗血症、菌血症を伴う肺炎などの重篤な感染症をおこします。肺炎球菌による髄膜炎は0歳児に最も多く、重篤な感染は2歳未満の乳幼児期で特にリスクが高いとされています。

【肺炎球菌ワクチンについて】

不活化ワクチンです。

肺炎球菌ワクチンは髄膜炎や敗血症など重篤な感染症をおこす13種の血清型に対し高い効果のあるワクチンです。当初7価ワクチンが導入され平成25年11月から13価ワクチンに移行しました。

0歳児が最も感染しやすいことから月齢の低いうちに接種を開始することが必要です。

副反応として接種部位が発赤し腫れることがあります。また3割程度の人に接種数日以内に発熱が見られます。

【接種方法】 ワクチン0.5mlを皮下に接種します。

【定期接種できる期間】 生後2カ月～5歳になる日の前日まで

【スケジュール】 接種開始月齢により回数が異なります。

標準的には生後2カ月～7カ月に至るまでの期間に接種を開始します。

接種開始時 2～6カ月：4回

（4週以上の間隔で1歳までに3回 その後60日以上あけて生後12～15カ月時に1回）

7～11カ月：3回

（4週以上の間隔で1歳までに2回 その後60日以上あけて生後12カ月以降に1回）

1歳：2回

（60日以上あけて2回）

2～4歳：1回

【接種費用】 無料（23区内の予防接種予診票を持参し、記載された有効期限内であれば公費負担）

ただし23区内の予診票を持参しないで接種 対象年齢を超えての接種

指定医療機関以外での接種 規定の回数を超えての接種 は有料

【持参するもの】 予防接種予診票（体温以外の項目をあらかじめ記入しておいてください。）

母子健康手帳

※補助的追加接種について

すでに7価ワクチンを接種完了した6歳未満のお子さんが対象です。

完了から8週間以上の間隔をあけて13価ワクチンを1回接種することで、他の6種の免疫獲得が期待できます。この場合は任意接種となります。

※主に高齢者を対象とする成人用肺炎球菌ワクチンとは異なります。